

■ 編 集 委 員

池淵 研二 (委員長)

小林 国彦

小山 勇

篠塚 望

菅澤 正

名越 澄子

仁科 正実

町田 早苗

松下 祥

渡辺 修一

Chad L Godfrey (五十音順)

■ 編 集 後 記

熊谷の気温が 35℃、館林が 36℃ と言ってびっくりしたのは数年前までの話となってしまった。今年の 7 月、8 月は全国的に 35℃ 以上の猛暑が続き、39℃、40℃ を越す記録が出てしまっている。一体、日本の夏はどうなってしまったのか？世界のニュースを見ると、この異常高温は日本ばかりではなかった。100 m 以上の厚みのある氷山がグリーンランドの町の海岸に押し寄せ、そこで崩落して町に津波が押し寄せたらしい。北欧では異常高温のため森林火災が何日も消火できないらしい。

毛呂のキャンパスにいても、建物から建物の間を外に出て移動しようとする、クーラーの室外機の温風の中を歩いているように肌に暖気が迫ってくる。車の進行・誘導係をきちんと制服を着用して行っておられる方々には「ご苦労様です」と顔を合わすたびに自然に挨拶するようになってしまう。

先日 7 月 20 日に毛呂山キャンパスでは学内グラント成果発表会が開催された。この成果報告書は埼玉医大雑誌に掲載されるようになっている。この会は埼玉医大の研究レベルを知るには一度は参加する価値のある会である。テーマが自分の専門や得意ではないと敬遠される必要は無い。「この分野は素人ですが、是非聞いておきたいことがあります質問させていただきます」と挙手することは自由である。時には Nature 誌に掲載された研究成果を発表されることもあり、とある診療科の先生が予測もしなかったテーマで研究させていることを知り、へえ〜と感動する機会も多い。大学発ベンチャーが目指せそうな研究成果が紹介される場合もある。

昨日ちょうど、昇格人事の辞令伝達式に参加させていただいた。160 枚を超えるスライドを駆使して理事長から、毛呂病院の成り立ち、埼玉医大グループが求めている医療の理想郷づくり、3 病院の最近の話題について講話があり拝聴させていただいた。主任、係長、副師長になるような世代の方、初めて理事長の話を聞かれた方には非常にインパクトが大きかったと思う。近くで理事長講話を拝聴できる職員は幸運である。企業と連携したリサーチパーク造りも間もなく着手されるとのこと。今後、医学研究領域でも埼玉医大が知名度を上げ、埼玉医大ここにあり、と評判になることが期待できる。

(池淵 研二)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第 45 巻 第 1 号

編集責任者

池淵 研二

平成 30 年 8 月 16 日 印刷

平成 30 年 8 月 31 日 発行

発行所

埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

電話 049 (276) 2102/2030 (直通) FAX 049 (276) 1964 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

製 作

レタープレス株式会社

広島市安佐北区上深川町 809 番地の 5 電話 (082) 844-7500 <http://www.letterpress.co.jp/>